

歌人が問う福島原発事故と「復興」 講演会

声を束ねて

沈黙は日ごとに解けていくように
一人ひとりと声を束ねて



講師 三原由起子さん

2025

12/12 (金) 15:05~16:50 (開場14:30)

茨城大学人文社会科学部講義棟 13番教室

(水戸キャンパス 水戸市文京2-1-1)

東日本大震災・福島原発事故で被災した浪江町。

三原さんは、当事者として、ふるさとや社会への想い・共感・疑問を言葉にのせて表現してこられました。歌人として『ふるさととは赤』(本阿弥書店)他、生活者としての被災の経験を短歌として表現されています。今回は、三原さんの言葉から東日本大震災・福島原発事故をみつめたいと思います。

三原由起子さんの経歴

1979年 福島県双葉郡浪江町生まれ。

1995年より作歌を始める。第48回福島県文学賞短歌部門青少年奨励賞受賞。

1997年 第1回全国高校詩歌コンクール短歌部門優秀賞受賞。

1999年 早稲田短歌会入会。

2001年 第44回短歌研究新人賞候補作。

2002年 共立女子大学国際文化学部国際文化学科日本文化コース卒業。

2011年 詩歌文芸出版社いりの舎を夫と設立。

2013年 第24回歌壇賞候補作。

2013年 第一歌集『ふるさととは赤』(本阿弥書店)を出版。

2017年度~2019年度 日本歌人クラブ中央幹事を務める。

2021年 新装版歌集『ふるさととは赤』(本阿弥書店)を出版。

2022年 第二歌集『土地に呼ばれる』(本阿弥書店)を出版。

現在、現代歌人協会会員、日本歌人クラブ参与、調布市西部公民館「短歌スケッチ」講師など。



どなたでも
参加できます (無料)

主催 茨城大学人文社会科学部市民共創教育研究センター
企画 環境社会学研究室、国際政治学研究室、地域社会論研究室
協力 一般社団法人ふうあいねっと